

第 26 回 網走開発建設部入札監視委員会 審議概要

開催日及び場所	平成 21 年 11 月 10 日（火） 網走開発建設部 第 1 会議室		
委員	菊地 均（北海商科大学教授） 鈴木 輝之（北見工業大学教授） 中原 章博（税理士） 長澤 真史（東京農業大学教授） 八峠 剛一（弁護士） （五十音順）		
審議対象期間	平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日		
議 事	1 工事及び建設コンサルタント業務等に係る入札・契約手続の運用状況等に関する報告 2 抽出工事及び建設コンサルタント業務等に関する当番委員の報告 3 抽出工事及び建設コンサルタント業務等に係る一般競争（指名競争）参加資格の設定の理由及び経緯等に関する説明及び審議		
委員からの意見・質問、それに対する回答			
	意 見・質 問	回 答	
	<p>【入札・契約手続きの運用状況等】</p> <p>意見質問等特記事項なし</p> <p>【一般競争契約（政府調達に関する協定適用対象工事）以外】 網走川環境整備事業の内 網走湖浚渫外工事</p> <p>工事で使用する浚渫船は官貸するのか。</p> <p>浚渫船が無ければ本工事への入札参加は無理か。</p> <p>当該工事は何年ほど継続しているのか。</p> <p>過去 5 年間の落札業者は同じ業者か。</p> <p>浚渫後の土砂はどうしているのか。</p>		
	<p>受注者が用意する。</p> <p>河川における浚渫工事の施工実績があればよく、自社で浚渫船を所有していなくても他から調達できれば問題はない。</p> <p>平成 5 年度から継続して行っており、今年で 17 年目となる。</p> <p>同じ業者が落札しているが、有資格業者のうち、道内で浚渫の実績のある者は 36 社程度いると思われる。</p> <p>浚渫後の土砂（底泥）は本工事の中で排泥地</p>		

に堆積して水抜き後、土質改良を行い、地元の農協に再利用してもらっている。

【一般競争契約（政府調達に関する協定適用対象工事以外）】

北海道横断自動車道 訓子府町シルコマベツ改良工事

意見質問等特記事項なし

【一般競争契約（政府調達に関する協定適用対象工事以外）】

一般国道39号 北見市 川東改良工事

契約締結資格の同種工事の実績について、「ア 切土量が10,000m³以上の道路工事の施工実績、イ 盛土量が100,000m³以上の道路工事の施工実績を有すること。」となっているが、資格要件を設定するに当たっては、どのように土量を決めているのか。

7者のうち4者が予定価格超過となっているが、何か理由は考えられるか。

落札率は何パーセントか。

【一般競争契約（政府調達に関する協定適用対象工事以外）】

網走港南防波堤ブロック製作工事

この工事は、消波ブロック製作のみの工事か。

比較的単純な工事であると考えられるが、落札者と次順位者との間に大きな価格差がある。理由は何か。

落札率は何パーセントか。

今回入札参加者は3者であるが、3者以外にも消波ブロックの製作実績のある者はいるのか。

発注する工事の切土や盛土の数量に応じた設定要件事例が本局から統一的に示されており、これに基づき施工実績の土量を決めている。

当該工事の中に延長約9,000mの立入防止柵の施工が含まれているが、延長が長いため、1m当たりの単価による差が予定価格超過の原因となったのではないかと推測される。

94.6パーセントである。

そのとおりである。据付は別途工事となる。

落札者は直接工事費の中の大型クレーンにかかる経費など間接経費の価格を全体的に下げている。このため、2位の者との価格差が大きかったのではないかと推測される。

86.4パーセントである。

道内には、消波ブロック製作の実績のある者は33者程度いる。

【一般競争契約（政府調達に関する協定適用対象工事以外）】

岐阜地区 放水路工事

この工事についても落札者と次順位者との間に大きな価格差がある。理由は何か。

仮設工である矢板の存置期間をどう考えるかにより、損料等が大きく違ってくることがあり、工程上の考え方による差が積算の差に反映されたのではないかと推測される。

【指名競争契約（建設コンサルタント業務）】

北海道横断自動車道 訓子府町 第1ポ
ンケトナイ川橋詳細設計業務

受注者は道外の者だが、それ以外に応札者で道外の者はいるのか。

今回応札した業者10者のうち、3者は道外業者である。

本州の大手が経営上問題ないからといって低入札で応札するならば、地元の業者は受注できなくなってしまう可能性がある。低入札にはこのような課題も抱えていると思うが、経営上問題ないからといって、適正とは言い難い価格で応札することには問題があるのではないか。

本業務については、発注時期が年度当初であり、コンサル業者の手持ち業務量もまだ少ない時期であることから、技術者に余裕があることも低入札となった背景ではないかと推測される。また、建設コンサルタント業務等の低入札受注においては、業務成果品の品質低下も懸念されることから、技術者の手持ち業務量を制限したり、第三者照査を義務づけるなどの対策を講じるよう、通達が改正されたところである。

【一般競争契約（役務契約）】

車両管理業務（網走開発建設部本部）

昨年度も同じ業者が落札したのか。

昨年度は指名競争入札で行ったが、同じ業者が落札した。

本年度は低入札となっているが、昨年度の落札金額、落札率はどうか。

昨年度は落札額64,980千円で95.6パーセントの落札率であった。ちなみに、本年度は昨年度よりも台数が減ったため、予定価格も2千万円ほど低くなっている。

委員会による意見の具申又は勧告の内容

なし